

情勢報告

今作も安芸市環境保全型農業推進事業に係る地区勉強会が始動！



環境保全型農業の次は？環境制御って？
新たなステージへ！

安芸市では、環境保全型農業推進と生産者の栽培技術力アップを目的に JA、安芸市農林課、振興センター共催で JA 出荷者及び個人市場出荷者を対象とした勉強会を年 3 回、定期的に開催しています。本園芸年度も第 1 回勉強会を 8/12～9/11 に市内 5 地区で開催し、生産者 57 人が参加しました。

振興センターは定植前後の病害虫対策や栽培管理ポイント、施設内環境測定的重要性や炭酸ガス施用による増収技術等を紹介しました。

今後、振興センターでは、環境保全型農業だけでなく、施設内環境制御による増収技術についても地区勉強会を通じて広く普及・推進していきます。

就農状況の確認



次作の課題は・・・

8 月 13 日、北川村、JA 土佐あき、農業振興センターは青年就農給付金（経営開始型）を受給している農家(1 戸)を訪問し、就農状況について確認しました。

現地で栽培品目の生育状況を確認しながら、現状の経営規模、収量や売上の実績などを聞き取り、目標に対する達成状況、前年度の問題点、改善に向けた対策について話し合いました。農家から「ヒートポンプの使い方がわからなかった。次年度は、良い結果を出したい」など意欲的な意見が出ました。

今後も、関係機関と協力して、経営計画に沿った営農ができるよう支援していきます。

ナスに「すす斑病」が発生！～早めの防除で対応～



すす斑病対策を説明する
普及指導員

今年はナスの育苗期や本圃の太陽熱土壤消毒期の8月上、中旬に台風や記録的な多雨、少日照で、病害の発生が心配されていました。

そのような中、「すす斑病」の発生が8月21日に複数の圃場で確認され、振興センターでは早急に対策資料を作成し、JAとの個別巡回指導を行うとともに、安芸市の広報誌にも掲載して、周知を図りました。

現在、感染の広がりや新たな発生圃場は見られておらず、ナスの生育への影響を最小限に止めています。

振興センターでは、引き続き、他の病害発生に対する注意喚起や対策も指導していきます。

最新 I P M技術を学ぼう～島根大学生による視察研修～



ハウスに入って最新 IPM 技術を学ぶ

8 月 25 日、島根大学の先生と学生合わせて 9 人が、施設ナス栽培における IPM 技術の取り組みについて勉強するため、室戸市羽根町の農家を訪問しました。

振興センターから管内の IPM 技術普及の経緯について説明した後、土着天敵温存ハウスで実際の天敵や害虫を観察しました。大学生から「実物を見るのは初めて」「温存ハウスって暑い」等の様々な感想が出ていました。また、農家に天敵の捕まえ方や放飼する時期などを教わり楽しく学ぶことができました。

今後も振興センターは、このような機会を活かして、高知県の環境保全型農業を P R していきます。

～農業災害対策事業・融資制度等説明会の開催～



真剣に説明を聞き入る参加者のみなさん

振興センターでは、8 月 27 日に安芸市健康ふれあいセンター「元気館」1F 大ホールで安芸市、J A 土佐あき、日本政策金融公庫、J A バンク高知信連と連携して、8 月の台風災害に対する事業・融資制度の説明会を開催しました。レンタルハウス事業や各種融資制度について説明し、その後、個別相談を行いました。参加者からは「修繕に対応できる補助事業はないか」「半壊は対象にならないが、どうにかならないか」など切実な意見が出されました。

今後も振興センターは関係機関と連携し、災害への対応について情報収集しながら支援していきます。

今年もいもち病やウンカが多い？～集落営農組織「^{あいな}愛稲の会」水稻現地検討会～



これがウンカ？結構おるねえ

9 月 2 日、馬路村相名地区集落営農組織は相名地区水田圃場で 11 人が参加して現地検討会を開催しました。

振興センターは、巡回しながら、いもち・紋枯れ病等を確認し、また、網振りによりカメムシ、ウンカ類を実際に見せながら効果のある農薬の情報提供を行いました。

「今年はいもちが多いように思うが農薬は何がえいろう」「これが穂首いもち？」等、部会員相互で教え合いながら活発な意見交換が行われました。

今後、振興センターでは収穫時に再度巡回し、薬散の効果や外観品質を確認することで、来作につながる栽培方法の改善を提案します。

ダリア部会での 26 園芸年度天敵利用の現地試験総括と 27 園芸年度の計画



熱心に討議する参加者

9 月 3 日、部会員 3 人を含む県関係者等 17 人が参加してダリアの天敵利用の 26 年度現地試験総括と 27 園芸年度の計画を協議しました。

振興センターは、部会をコーディネートし、27 園芸年度も引き続き新しい天敵資材を用いた現地試験を農業技術センターや病虫害防除所とともに実施するように部会等に協力をお願いしました。また、現地検討会では各圃場を巡回し、生育状況、気象条件に応じた灌水方法の改善や展張寒冷紗除去の指導を行いました。

今後、振興センターでは、天敵調査を 10 日ごとに行い、天敵の定着状況を調査します。

新規就農者の育成に向けて、先進地事例調査



幡多農業振興センターから説明を受ける

9 月 4 日、四万十市あぐりっこ研修センターで振興センターが企画し、田野町担い手育成協議会 7 人が四万十市の新規就農支援の取組を研修しました。

参加者は、就農ハウスの確保手法等、研修内容を町内の就農支援に活かすことを確認しました。

振興センターでは、地域の新規就農者の確保のため、関係機関と連携した就農支援や支援体制づくりを進めていきます。

吉良川ポンカン摘果講習会



摘果指導の様子

9 月 5 日、吉良川ポンカン部会が摘果講習会を開催し、生産者 15 人が参加しました。振興センターから今年産果実の肥大状況と摘果方法について説明した後、実際に摘果を行い、適正な着果量について目慣らしを行いました。参加者からは「今年は台風のスレ傷がひどい」、「雨が多かったので糖度が心配」といった厳しい声が聞かれました。

振興センターでは、今後も J A と協力して果実肥大調査や果実分析等を行い、栽培管理の参考となる情報を生産者に提供し、ポンカンの品質向上を支援します。

大野倶楽部 食農教育体験養成講座



活動がマンネリ化してきた！みんなの賛同を得てより多くの人の活動にしたい！

9 月 6 日、田野町東大野で食農教育体験交流事業指導者養成講座が実施されました。

振興センターは、講座の日程調整や集落営農組織に参加を呼び掛けました。

交流事業とは何かの説明や食農教育体験交流でのイメージを参加者が話し合いました。「若い女性に入ってほしい」「活動が一部の人に偏っているの、多くの人に参加してほしい」等の声が出ました。講師から、「現状把握、地域おこし応援隊の協力、料理から人材の掘り起こし（〇〇名人）を」と提案がありました。

今後、振興センターでは、継続した交流会活動になるように課題解決に向けて支援していきます。

今作最後の酒米現地検討会 ～安芸市東川酒米研究会～



病気、雑草がなくきれいな稲や

9月10日、安芸市東川酒米研究会は、安芸市入河内で酒造会社5社を招き現地検討会を開催しました。生産者は10人全員が参加しました。

振興センターは、巡回しながら現在に至るまでの気象条件や栽培方法との関連、ウンカ類の注意報が出ている各県の状況を説明しました。会員からは、「いもち病は止まったか?」「今度はウンカによる坪枯れが怖い」等の意見が出ました。

今後、振興センターでは、収穫後の米の品質調査を農技センターとともにに行い、結果を報告して各生産者に自分の作り方が酒米の品質に及ぼす影響を理解していただくよう促します。

J A土佐あき柚子部 畑山支部接ぎ木講習会



接ぎ木のお手本を指導する普及指導員

9月18日、J A土佐あき畑山支部でユズの接ぎ木講習会を開催し、生産者13名が参加しました。この講習会は、ユズの栽培技術を後継者に伝えるために、畑山支部の「後継者育成会」が主体となって開催しており、今年で3回目を迎えました。振興センターは作成した資料をもとに、接ぎ木（腹接ぎ）の説明や実演を行いました。その後は参加者全員で、開催場の園主に用意してもらった台木200本に接ぎ木を行い、技術修得を図りました。接ぎ木の実践の際には、生産者同士で意見交換をするなど、活発な講習会となりました。

今後も振興センターでは、同部の後継者育成の取り組みを支援していきます。

今作もナスは‘土佐鷹’で儲けよう！～芸西土佐鷹現地検討会～



現地的话题で盛り上がる土佐鷹生産者

本格的な出荷が始まる9月18日に、JA土佐あき芸西集出荷場ナス部会の土佐鷹生産者11人が集まり、土佐鷹現地検討会を開催しました。

振興センターから今後の栽培管理のポイント、生育状況の把握と管理方法、「茎折れ」「ツノ果」の対策、炭酸ガス等の土佐鷹実証圃計画について説明しました。

現地検討会では、初期の生育状態を生産者同士で確認しながら、6圃場を巡回しました。篤農家からは、「実や花が増え、芯が細くなっており、肥料と水がもっと必要」等の的確な助言がありました。

振興センターは、今後も部会で実証圃の状況報告や栽培技術の周知を行い、個別巡回で土佐鷹生産者の増収を支援します。

生育状況を調べてみましょう ～奈半利研究会現地検討会～



生育調査方法を説明する普及指導員

9月19日に奈半利研究会は現地検討会及び勉強会を開催し、5人が参加しました。

現地圃場では、土壌溶液分析診断の実習を行い今後の肥培管理について生育状況と合わせて検討しました。参加した生産者は熱心に診断結果や今後の栽培管理方法について情報交換していました。勉強会では振興センターからは9月の管理や病虫害防除などの基本技術の徹底や生育診断による樹勢の把握と栽培管理について説明しました。

J A土佐あきからは平成26園芸年度の収量結果について説明がありました。

振興センターは、今後も土壌溶液診断による施肥管理や生育診断による樹勢の把握に基づいた栽培管理について、現地検討会や勉強会で情報提供していきます。